

2006年度第1四半期 決算説明会

富士写真フイルム株式会社

2006年7月28日



本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2006年度第1四半期 連結業績

FUJIFILM

■ 業績概要

(単位:億円)

	2006年度 第1四半期		2005年度 第1四半期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
売上高	100.0%	6,568	100.0%	6,252	+316	+5.1
営業利益①	6.6%	431	5.4%	337	+94	+27.8
構造改革費用		274		25	+249	-
営業利益②	2.4%	157	5.0%	312	-155	-49.5
税引前利益	2.7%	180	5.2%	325	-145	-44.7
当期純利益	0.7%	48	2.6%	160	-112	-69.9
設備投資*		232		393	-161	-41.0
減価償却費		588		502	+86	+17.2
研究開発費	6.6%	435	6.9%	434	+1	+0.1
為替:米ドル		115円		108円		+7円
ユーロ		143円		136円		+7円

* 有形固定資産のみ。(ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く)

■ 構造改革の進捗

2006年度1Q 構造改革費用

(単位:億円)

内容別内訳

設備等資産関連	155
人員関連	119
構造改革費用 計	274

事業セグメント別内訳

イメージング	209
インフォメーション	65
構造改革費用 計	274

- 設備等資産関連
固定資産の加速償却等
- 人員関連
特別退職金等

事業別セグメント情報

■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

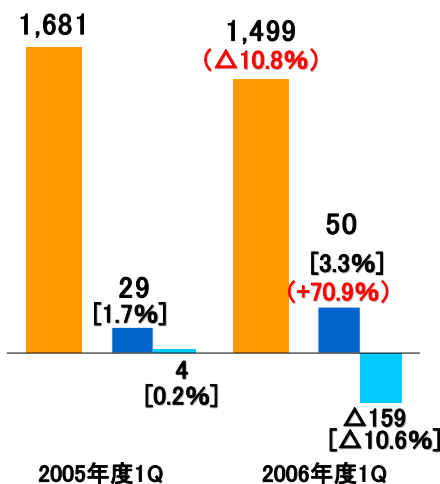
業績のポイント

- 売上高
- 営業利益(構造改革費用抜き)
- 営業利益(構造改革費用込み)

単位:億円

[]: 営業利益率

(): 前年比



売上高

売上高: 1,499億円(前年比 △10.8%)

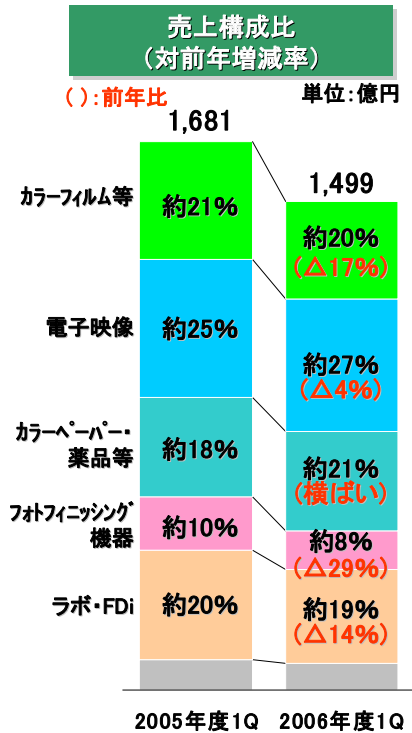
- カラーフィルムやフォトフィニッシング機器等の販売が減少する中、カラーフィルム・カラーペーパーのシェアアップにより減収幅は10%程度に留める。

営業利益

- 構造改革費用を除いたところでは50億円の黒字。(対前年同期 21億円の増益)

*セグメント間取引消去後

【事業別ハイライト】



カラーフィルム

- 世界的に依然需要が減少する中、競合他社の市場撤退を受け、市場シェアは徐々に上昇。
- 7月より国内外で順次値上げを開始。

電子映像

- 1Qのデジカメの販売数量実績は、130万台。
国内：5月発売のISO3200「FinePix F30」が販売好調。
6月後半発売の「FinePix Z3」も好調な滑り出し。
海外：欧州・アジアでも「FinePix F30」払い出し順調。
欧米では、エントリーモデルを中心に厳しい価格競争を展開。

カラーペーパー・薬品等

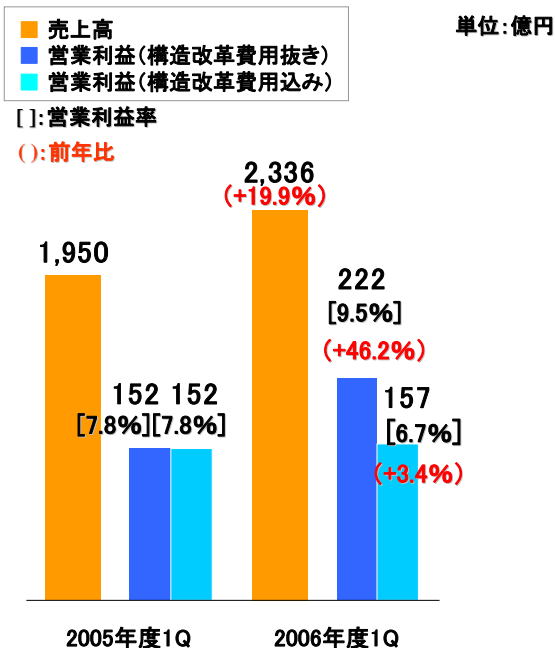
- カラーフィルムからのプリント需要減少の中、デジカメプリント市場の拡大とシェアアップにより売上は横ばいを確保。

フォトフィニッシング機器

- 新規導入が低調に推移し、販売が減少。

■ インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益



*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高: 2,336億円(前年比 +19.9%)

- フラットパネルディスプレイ(FPD)材料の売上が引き続き大幅拡大。
- CTP化の進展と市場シェアアップにより印刷CTPプレートが大幅に売上増。
- データストレージテープを中心とする記録メディアが販売拡大。

営業利益

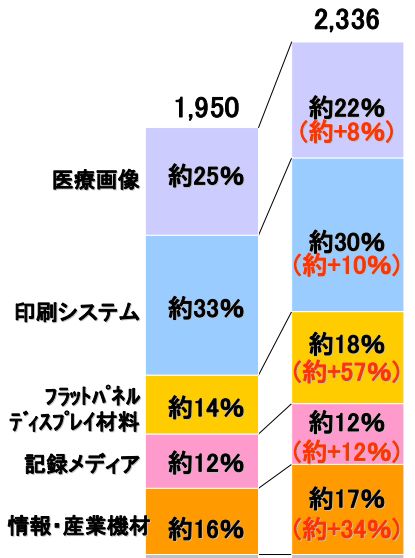
- 構造改革費用を除くと対前年同期70億円(46.2%増)の大幅増益。

【事業別ハイライト】

売上構成比 (対前年増減率)

(): 前年比

単位: 億円



2005年度1Q 2006年度1Q

LTO Ultriumは、IBM社、Hewlett-Packard社、Quantum社の米国及びその他の国における登録商標です。

6

医療画像

- FCR、ドライイメージャー、ドライフィルムを中心に売上が堅調に推移。
- 「経鼻内視鏡」を中心に内視鏡は着実にビジネスを拡大。
- 7月、FCR マンモグラフィがCR方式として世界で初めて米国FDAのPMA認可を取得。

印刷システム

- ワールドワイドで、CTPプレートの販売が拡大。
- 国内に続き、海外でも印刷材料の値上げを推進中。

フラットパネルディスプレイ材料

- フジタック、WVフィルムは販売好調で売上拡大。
- フジタックは計画通り生産能力増強を推進。
(2006年10月、富士フイルム九州(株)第1工場稼働予定)

記録メディア

- データメディア分野において、より大容量のLTO Ultrium 3とIBM社「3592」向けテープが好調。

情報・産業機材

- カメラ付携帯電話用レンズユニットが市場で高い評価を獲得。

事業別セグメント情報

■ ドキュメント ソリューション

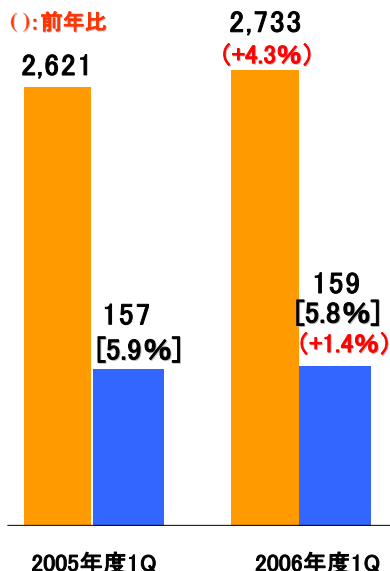
売上高*・営業利益

■ 売上高 ■ 営業利益

単位: 億円

[]: 営業利益率

(): 前年比



2005年度1Q

2006年度1Q

*セグメント間取引消去後

業績のポイント

売上高

売上高: 2,733億円 (前年比 +4.3%)

- カラー複合機の販売が欧米向け、アジア・中国地域を中心に大幅に増加。
- 欧米向けのモノクロレーザープリンターが販売増。

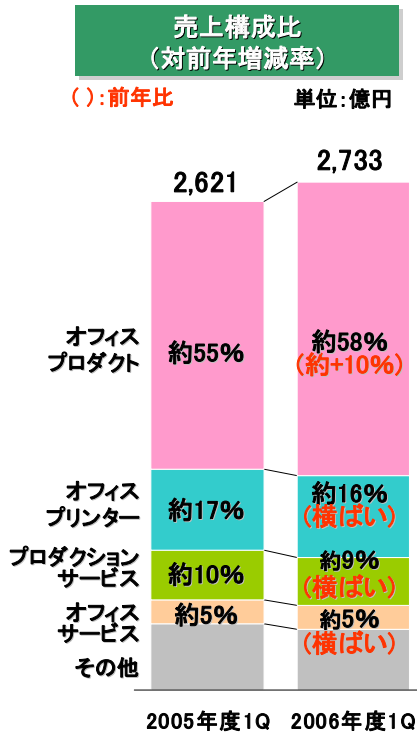
営業利益

営業利益: 159億円 (前年比 +1.4%)

- 成長地域であるアジア・中国向け販売力の増強や情報プロセス改革による販売サポート強化により「販売費・一般管理費」が増加し、利益は微増。

7

【事業別ハイライト】



オフィスプロダクト

- 国内においてはApeosPort- IIシリーズのラインアップを強化。また、DocuCentre G2100を発売し、低価格・高付加価値ニーズに対応。
- 欧米向け輸出とアジア・中国地域での販売において、カラー機が増加。

オフィスプリンター

- 国内においてはOEM供給先の在庫調整の影響を受け、販売台数が減少。
- 欧米向け輸出において、OEM向け中速のモノクロ機の販売が増加。

プロダクションサービス

- 欧米向けカラー・オンデマンドプリンティングシステムの販売台数が増加。
- 大型プリンティングシステムは、前年同期に大口ユーザーの設置により減収。

オフィスサービス

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが伸長。
- 前年同期の戸籍電子文書管理システム納入の特需により、今期は減少。
- 内部統制ビジネスの専門営業組織を新設しサービス事業拡大を推進。

VISION75 (2006) 進捗状況

■ 成長・新規事業分野の拡大

- 産業用インクジェットプリンター用ヘッドのトップメーカー 米国Dimatix社を買収。 (2006年7月に買収完了)
⇒富士フイルムグループが有する高度なインク技術を融合させ、産業用インクジェットビジネスの事業拡大を目指す。
- 内視鏡、光学デバイス等の成長事業を担うフジノン(株)を完全子会社化。 (2006年10月1日より)
⇒富士フイルムグループ全体として最適な資源の配分を強化。
開発・製造から販売までワールドワイドに連携を推進。

■ 持株会社化による新経営体制への移行

- 持株会社「富士フイルムホールディングス(株)」の取締役に富士ゼロックスから2名、社外取締役1名が就任。

(単位:億円)

	2006年度 (予想)	2005年度 (実績)	増減	
			金額	%
売上高	27,400	26,674	+726	+2.7
営業利益 (営業利益率)	800 (2.9%)	704 (2.6%)	+96 -	+13.6 -
税引前利益	800	796	+4	+0.5
当期純利益	380	370	+10	+2.7
為替 :米ドル	110円	113円	-3円	-
:ユーロ	135円	138円	-3円	-
構造改革費用	790	860	-70	

10

参考データ

FUJIFILM

■ 構造改革費用精査による2005年度1Qリステート

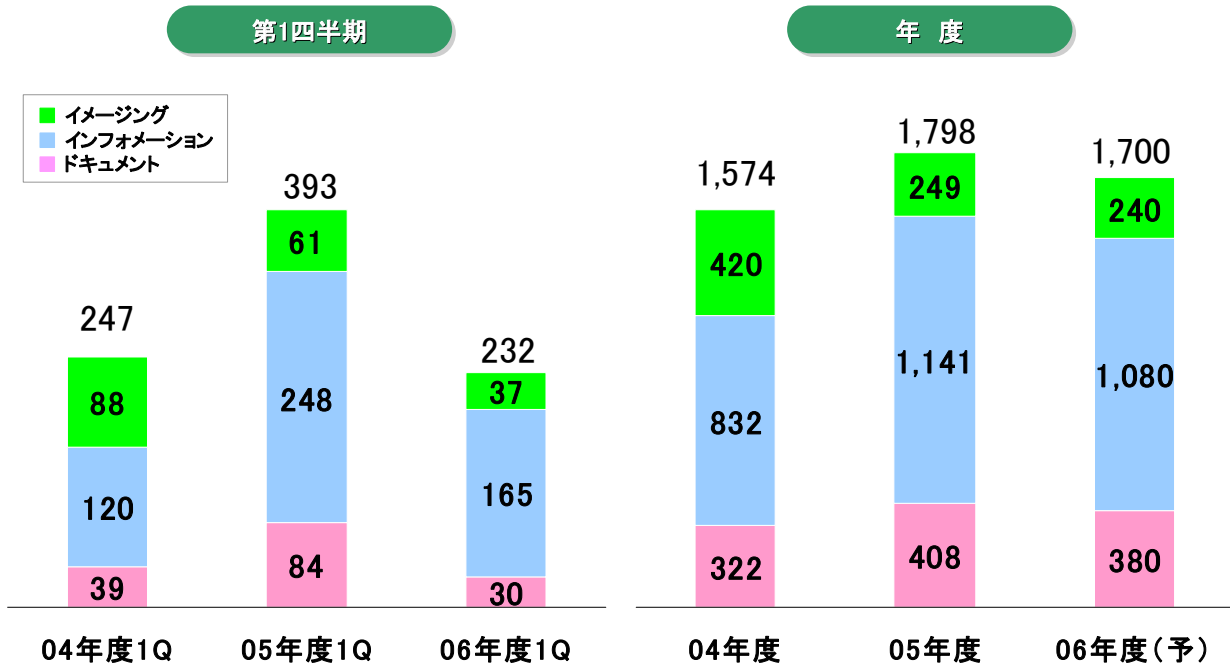
(単位:億円)

	リステート前 '05年7月29日開示		リステート後 '06年7月28日開示	
売上原価		3,325		3,313
レンタル原価		381		381
売上原価	59.3%	3,706	59.1%	3,694
売上総利益	40.7%	2,546	40.9%	2,558
SG&A	28.8%	1,800	28.6%	1,787
R&D	6.9%	434	6.9%	434
構造改革費用	-	-	0.4%	25
営業費用	35.7%	2,234	35.9%	2,246
営業利益	5.0%	312	5.0%	312

11

■ 有形固定資産の設備投資額*

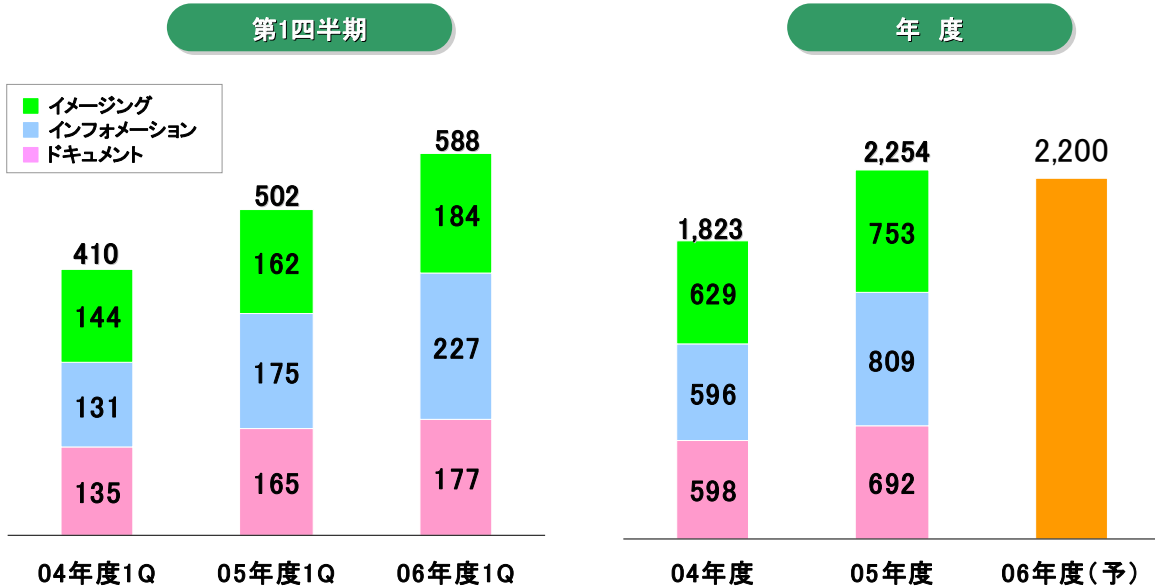
(単位:億円)



※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

■ 減価償却費

(単位:億円)



有形固定資産*の減価償却費 (単位:億円)

286	308	475
-----	-----	-----

1,304	1,569	1,500
-------	-------	-------

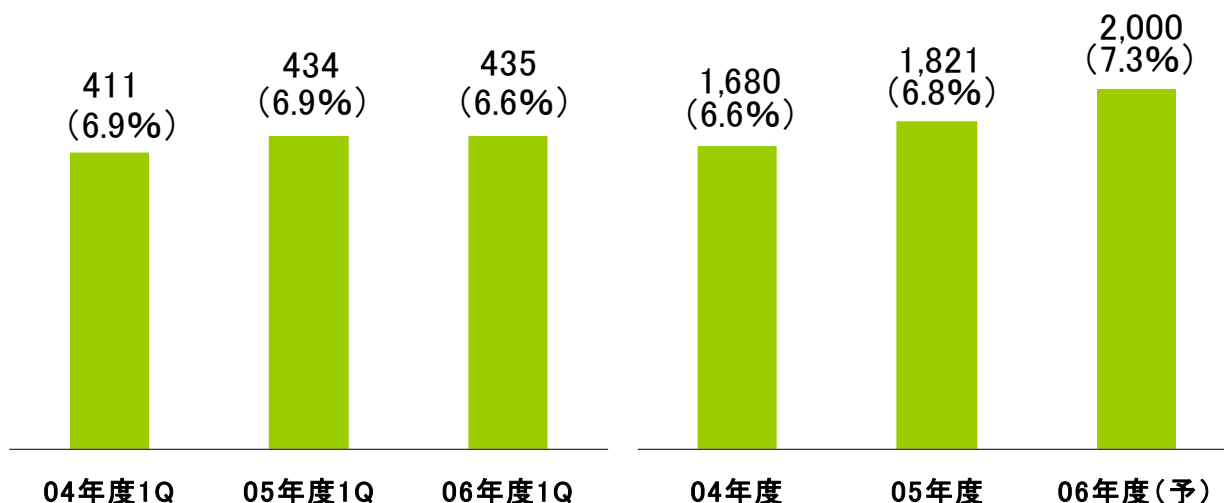
※ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く

■ 研究開発費

(単位:億円)

第1四半期

年度



()は、売上高に対する研究開発費の比率

■ 為替、人員

● 為替

(単位:円)

	2006年度		2005年度				
	1Q	(予)	1Q	2Q	3Q	4Q	
米ドル	115	110	108	111	117	117	113
ユーロ	143	135	136	135	139	140	138

● 期末人員

(単位:名)

	2006.6末	2006.3末	2005.12末	2005.9末	2005.6末	2005.3末
単独	8,703	9,163	9,106	9,144	9,162	8,914
連結	77,479	75,845	75,606	76,430	76,146	75,638

FUJIFILM

富士写真フイルム株式会社
経営企画本部 IR室

<http://www.fujifilm.co.jp/>

本資料は、カラーオンデマンド・パブリッシングシステム「Color DocuTech 60」で印刷しております。